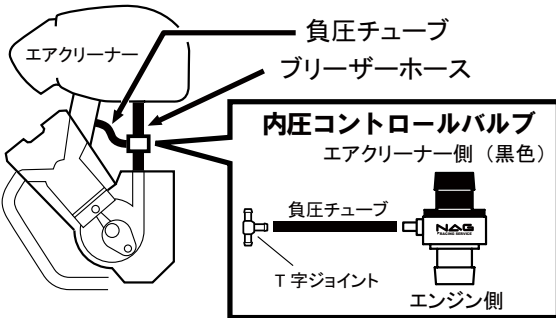


取付作業前にこの説明書をよくお読みください

この度はNAG SED 内圧コントロールバルブをお買い求め頂き誠にありがとうございます。  
この説明書は内圧コントロールバルブの2輪車への一般的な取付方法をご案内するものです。取付をおこなう車種により取付方法がこの説明書と異なる場合があります。また、製品の仕様(グレード)によって取付方法に違いがある場合もあります。ご購入された仕様をご確認の上、取付をおこなってください。

(図はエマルジョン対策仕様のイメージです。)

## 1 基本的な取付け方



内圧コントロールバルブは、エンジンとエアクリーナーを結んでいるブリーザーホースをカットして、その間に装着します。

【警告】取付の際はバルブ本体の黒い部分がエアクリーナー側になるように接続してください。逆に接続するとオイルが吹き出したり、エンジン不調の原因となります。

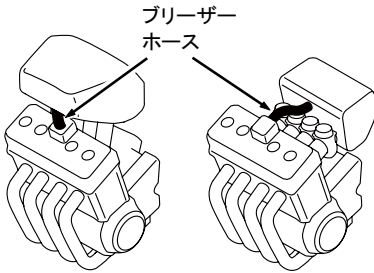
エマルジョン対策仕様では、エマルジョン(オイル成分の乳化)での動作不良を防ぐために、吸気系の負圧取出し口と内圧コントロールバルブを接続します。

(エマルジョン対策仕様には接続用に「負圧チューブ」「T字ジョイント」が付属しています。)

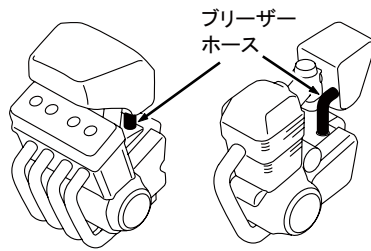
## 2 コントロールバルブの取付位置(ブリーザーホース位置)の確認

内圧コントロールバルブは、エンジンとエアクリーナーをつないでいるブリーザーホースをカットして取付ます。下の図はブリーザーホースの位置の代表例です。参考にしてコントロールバルブの取付位置をご確認ください。

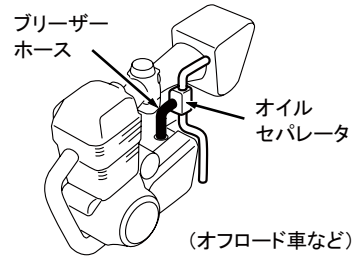
シリンダーヘッドから、ブリーザーホースが出ているタイプ



ミッションケースから、ブリーザーホースが出ているタイプ

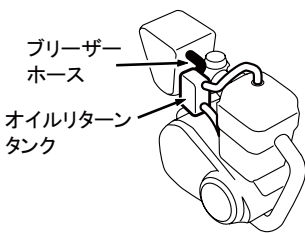


ミッションケースからオイルセパレータにブリーザーホースが繋がっているタイプ



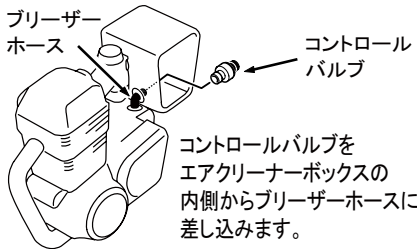
シリンダーヘッドとミッションケースの両方からブリーザーホースが出ているタイプ

(スズキ DR-Z400 など)



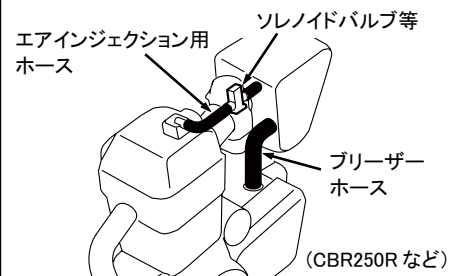
ブリーザーホースが短くてコントロールバルブを取付けるスペースがないタイプ

(ゼファー、エストレヤなど)



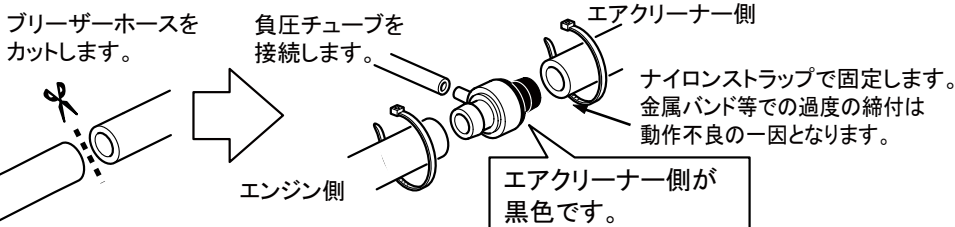
【注意】エアインジェクション付の車両ではブリーザーホースとエアインジェクションのホースを間違えないようにしてください。

エアインジェクションで排ガス対策がされている車両の場合、エアインジェクション用のホースがシリンダーヘッドより出ています。このホースはシリンダーヘッドから出るタイプのブリーザーホースと似ていて間違いやすくなっています。エアインジェクションのホースにはソレノイドバルブ等が取り付けられていますので、ご注意ください。

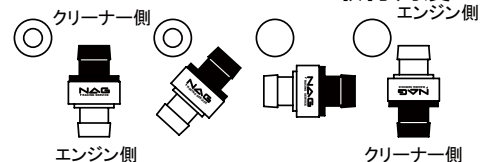


## 3 コントロールバルブの取付

ブリーザーホースをカットして、その間にコントロールバルブを装着します。



### コントロールバルブの取付角度

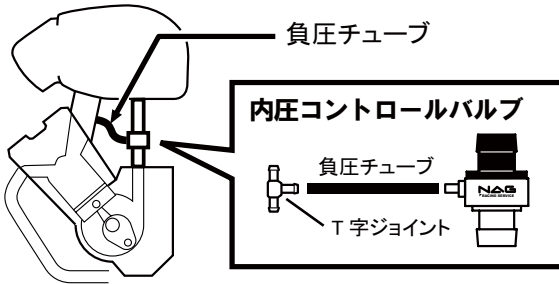


内圧コントロールバルブは、黒色の部分を上にできるだけ垂直に近い角度で取付けるのが理想です。

取付作業前にこの説明書をよくお読みください

バイク用 一般取付ガイド PART 1 より続きます。これから先の **4 5 6** の項目はエマルジョン対策仕様についての説明となります。

## 4 エマルジョン対策仕様の構成



エマルジョン（オイル成分の乳化）対策機能を有効にするために吸気系からの負圧を利用します。吸気系の負圧取り出し口と内圧コントロールバルブとの間を付属の負圧チューブで接続します。

2輪用エマルジョン対策仕様の本製品には負圧チューブとT字ジョイントが付属しています。

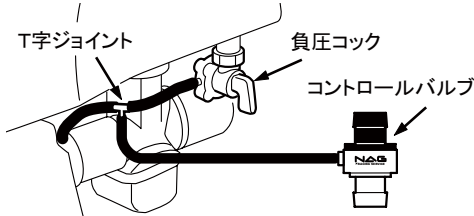
T字ジョイントは他の負圧系統より分岐させて負圧を取り出す際に使用します。

## 5 負圧の取り出し方法

内圧コントロールバルブと接続する負圧の取り出し方法の代表例です。下の図を参考にして負圧チューブの接続方法をご確認ください。

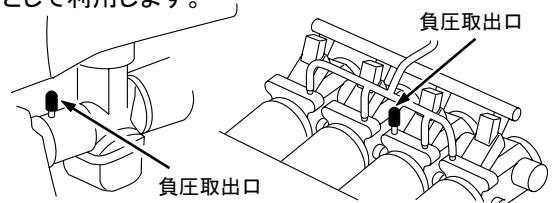
### ガソリンのコックが負圧タイプの場合

ガソリタンクに負圧コックがついている車両はコックへの負圧チューブをT字ジョイントで分岐させて負圧を取り出します。



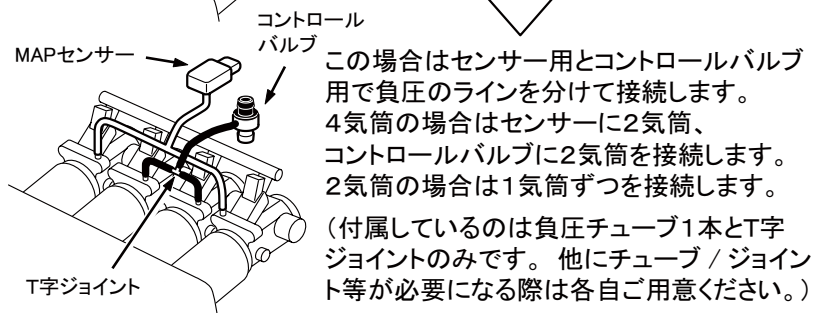
### 空いている負圧の取り出し口がある場合

キャブレターやスロットルボディ、マニホールド等に負圧の取出口があり、栓やフタをされて使用されていない場合それを負圧取出口として利用します。



### 負圧の取り出し口にセンサー等がついている場合

スロットルボディ、マニホールド部に負圧の取り出し口はあるがセンサー、ダイヤフラム等に使用している場合、センサーと同じラインから負圧を取り出すとセンサーが正しい値を計れなくなり、エンジン不調となる恐れがあります。

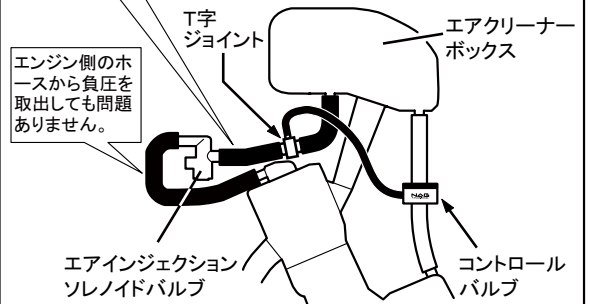


この場合はセンサー用とコントロールバルブ用で負圧のラインを分けて接続します。4気筒の場合はセンサーに2気筒、コントロールバルブに2気筒を接続します。2気筒の場合は1気筒ずつを接続します。  
(付属しているのは負圧チューブ1本とT字ジョイントのみです。他にチューブ/ジョイント等が必要になる際は各自ご用意ください。)

### エアインジェクション付車両の場合

エアインジェクション・システム(AIシステム)で排ガス対策がなされている車両の場合、AIシステムよりエアクリーナーへつながるホースをT字ジョイントで分岐させて負圧を取り出せます。

AIシステムから負圧を取り出す場合は、T字ジョイントのサイズ選定が必要となります。AIシステムのホースの内径をご確認の上、ご注文ください。



エンジン側のホースから負圧を取り出しても問題ありません。

上記のようなパターンに当てはまらない場合、負圧の取出口がない場合などは別途インシュレータなどの加工が必要となる場合もあります。もしくは負圧チューブを接続せずに代わりに栓をして、エマルジョン対策機能をキャンセルして使用できますが、その際はこまめな定期清掃が必要となります。

## 6 負圧チューブの接続

コントロールバルブと負圧取出口を結ぶ負圧チューブが余裕を持った取り回しになるように接続をします。耐熱仕様ではありますが、なるべく排気系などの高熱部を避けて取り回した方が安心です。

以上で取り付けは終了です。再度取付方向、部品の固定を確認してご使用ください。ご不明の点はお問合せください。

## 定期清掃について

本品はエマルジョンの処理は出来ませんが、同時発生するスラッジは防ぐことは出来ません。スラッジは作動部分には付着しませんが、乾燥固着すると除去が困難になります。長持ちさせるためにも、乾燥固着する前に走行距離に合わせて、年1~2度、又はオイル交換時に定期的な清掃をお願いします。

### 清掃方法

軽度の汚れの場合はパーツクリーナーや灯油、ガソリンで丸洗いして清掃してください。汚れがひどく上記の方法で除去出来ないときには、キャブクリーナーを使用してください。また清掃にはブラシなどは使用しないでください。